

久慈農業改良普及センターだより

あぐりあす 2013/04/19 (1)

普及センター情報 233号

平成25年4月19日発行

久慈農業改良普及センター

TEL : 0194-53-4989 FAX : 0194-53-5009



○ 新年度を迎えて ～所長あいさつ～ ○

東日本大震災津波から2年経過し、被災された沿岸地域の復興はまだまだですが、県では平成25年度を復興加速年として取り組むこととしております。

さて、昨年を振り返ってみますと、野田村の被災水田が地域農家のたゆまぬ努力により営農再開され、秋には平年並み以上の水稲収量となり共に喜びあいました。

今後は、被災水田を含めた地域の圃場整備が計画され、設立された機械利用組合（各ゆいっこ組合）や集落営農組織（宇部川地区農業生産組合）の活動により効率的な地域の水田農業の実践が期待されます。

担い手育成に関しては、新規就農者は13名となり、久慈地域の特産であるほうれんそう、菌床しいたけ等に取り組む若い農業者の活躍が期待されます。

また、地域農業の将来ビジョン、担い手育成・確保にかかるマスタープランは4市町村で17策定され、今後はプランの実践支援と未策定地域での策定が急がれます。

産地育成に関しては、ほうれんそう産地の生産向上対策の一つである土壌消毒効果も徐々に現れはじめました。そこで若い農業者グループの「グリーンバズ」が、積極的に土壌消毒普及に手を上げて体制を整え、産地活性の牽引役として活躍することが期待されます。

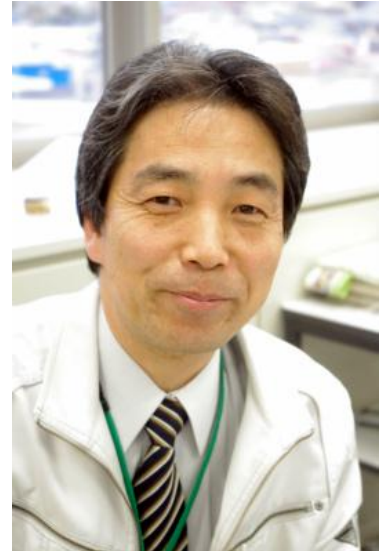
農村活性化については、2年ぶりに開催されました県北ブロック生活研究グループ交換大会において再会を喜び、カルタづくりによる郷土の再発見に豊かな時間を共有しました。また、21名の食の匠レシピ発表会の好反響、久慈東高校食物系列の生徒との実習・交流は匠にとって嬉しい有意義な活動となりました。

話題は変わりますが、4月から放映されていますNHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」は、久慈地域にとってとても刺激的でワクワクしながら画面に吸い付けられている人が大勢いるのではないのでしょうか。冒頭の映像から最後のご当地人物紹介まで久慈地域の素晴らしいところが沢山表現され、地元の良さを再発見する良い機会と考えます。

ふるさとから都会に出た多くの郷土人も目を凝らして見ていることと思います。久慈地域、ひいては岩手県を応援してくれる全国のファンが急増することでしょう。

あまちゃんの放映は半年だけですが、農は半年では終わりません。どんな苦境があっても耕し続けてきた先人の努力、英知が継承されてきました。あまちゃんブームを決して一過性で終わらせることなく、5年、10年、100年単位で灯し続け、知恵と技を磨き郷土の良さを内外に発信していきましょう。

最後に、当普及センターでは新採用を含む職員3名が加わり、若手からベテランまで17名職員一同、新たな気持ちで諸課題に対して農家とともに取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い致します。
















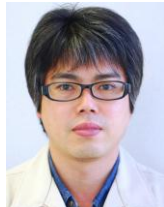



所長 高橋 英明

○ 平成25年度 久慈農業改良普及センター活動体制 ○

今年度も昨年と同じ17名体制で、①意欲ある多様な経営体の育成、②産地力強化支援、③農村の活性化支援の3本柱をメインテーマとし、地域課題の解決のためチームの連携により農業者に対する支援を進めてまいります。

【 職員分担 】※(新)転入

<p>マネジメント グループ</p>	 所長 高橋 英明	 技術主幹兼普及課長 白木 正範 (農村活性化チーム)	 普及課長 高橋 好範 (産地育成チーム)	 普及課長 中村 英明 (担い手育成チーム)		
<p>①農村活性化チーム ・地域特産品を活かした起業活動支援 ・産地直売所の活性化 ・食文化伝承と農村の魅力発信による農村の活性化</p>	<p>チーム長</p>  三浦 晃弘	<p>メンバー</p>  主査農業普及員 小田 豊			 主任農業普及員 成田 恵美	 (新)技師 山形 久美子
<p>②産地育成チーム ・ほうれんそうを核とした園芸産地の確立 ・花き、果樹の産地育成 ・収益性の高い水田利用推進 ・自給粗飼料等の生産改善による生乳、子牛の低コスト安定生産の推進 ・環境保全型農業の推進と安全安心システムの構築</p>	 主任農業普及員 藤澤 由美子	 主任農業普及員 洞口 博昭	 主任農業普及員 佐藤 武博	 技師 村上 大樹	 (新)技師 佐藤 聡太	
<p>③担い手育成チーム ・地域を担う経営体の育成 ・活力ある集落営農組織の育成</p>	 首席農業普及員 櫻田 弘光	 主査農業普及員 吉田 昌史	 (新)主査農業普及員 加藤 清吾	 農業普及員 熊谷 志紀子		

☆人事異動情報☆

今回の人事異動により久慈農業改良普及センターから転出した職員は以下のとおりです。


- 小川 陽 一関農業改良普及センター（一関市）
- 菅 広和 岩手県農業研究センター（北上市）
- 菊池 奈美 八幡平農業改良普及センター（八幡平市）



○ 今年度の転入者（3名）の自己紹介 ○

【①名前 ②出身地 ③担当 ④前任地 ⑤ひとこと】

①名前：加藤 清吾
(かとう せいご)




②出身地：宮古市

③担当：組織育成・集落営農推進、
花き

④前任地：病害虫防除所

⑤ひとこと：久慈普及センターは2回目です。前は、花きの担当でしたが、今回は担い手で集落営農も担当となります。初めての業務で慣れるまで時間がかかるとは思いますが、よろしくお願いします。

①名前：佐藤 聡太
(さとう そうた)




②出身地：奥州市

③担当：産地育成チーム

④新採用

⑤ひとこと：4月から新採用職員として久慈農業改良普及センターに配属され、ホウレンソウを担当することとなりました。まだ分からないことばかりですが、気持ちでは誰にも負けないよう頑張ります。よろしくお願いします。

①名前：山形 久美子
(やまがた くみこ)



②出身地：盛岡市

③担当：農村活性化チーム

④新採用

⑤ひとこと：新採用職員として久慈農業改良普及センター・農村活性化チームに配属となりました。初心を忘れず、1日でも早く地域に根ざした取り組みができるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

○ 長い間、ありがとうございました ○

岩手県青年農業士認定期間満了に伴い、
洋野町の下館友裕(しもだてともひろ)さん(平成21年度認定)
に対しまして知事より感謝状が贈呈されました。

これからも地域内外でのご活躍をご期待申し上げます。



洋野町 下館友裕さん



○ 農薬の適正使用について ○

1 農薬を使用する前に必ずラベルを確認しましょう！

農薬のラベルには、①農林水産省の登録を受けている農薬かどうか(登録番号)、②使用できる作物、③使用できる濃度または量、④使用できる時期(収穫前日数)、⑤使用できる回数、⑥使用方法等正しく使うために必要な情報(使用基準)が書かれています。農薬使用前に必ずラベルを確認しましょう。

《ラベルの表示例》

作物名	適用病害虫	希釈倍数	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	△△を含む農薬の総使用回数
○○○	アブラムシ類	4,000倍	収穫7日前	散布	1回	1回
×××	アブラムシ類	2,000倍	収穫14日前	散布	1回	1回

2 農薬を使用したら必ず記帳しましょう。

農薬を使用した場合は、使用した農薬名、月日、作物名、濃度や散布量などを記帳しておきましょう。記帳することで使用回数や収穫できる日数の確認が可能となり、また使用基準を守っていることの証明になります。

4月15日～6月15日は

あぐりあす 2013/04/19 (4)

春の農作業安全月間

<平成 25 年度スローガン>



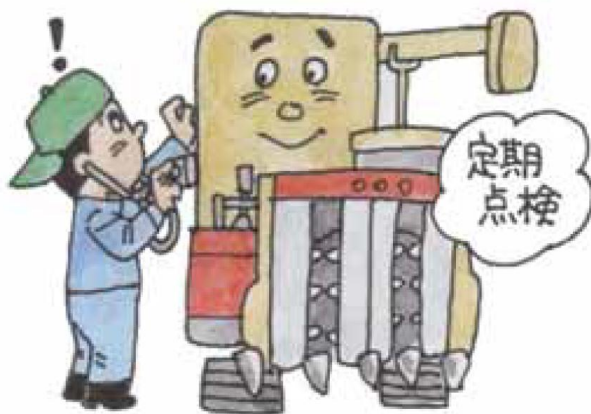
**慣れと油断が事故のもと
いつもの作業もまず確認！**

○反射材等の装着

暖かくなってくると、暗くなるまで作業することも多くなってくると思います。反射材などをつけて自分の場所を知らせることで、道路での接触・追突などの危険を減らしましょう。

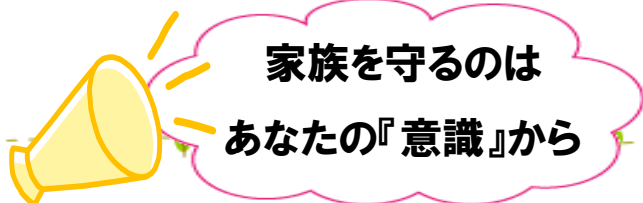
○農業機械の始業前点検

作業を行う前に農業機械の点検は行いましたか？整備不良の機械での作業はとても危険です。定期的に点検することを習慣づけましょう。



○家庭や地域での取り組み

事故防止には、日常の『声かけ』が大切です。皆で事故に気をつけていくために、家族や近所の人にも「怪我しないように気をつけて」と声を掛け合っていきましょう。



昨年度の県内の農作業死亡事故

トラクターや管理機に巻き込まれた	8 件
道路上での交通事故	2 件
野焼き中での事故	1 件
死亡事故合計	11 件

昨年度の県内で発生した農作業中の死亡事故は11件で、そのうち1件は久慈市で発生しています。

トラクターや管理機での作業は、ほ場のまわりの段差やぬかるみ、周りに人がいないかなどを確認してから行いましょう。トラクターの運転に慣れている人でも作業中に転落して巻き込まれる事故を起こしています。初心を忘れず、十分に注意して作業しましょう。また、いざという時のために、家族など周りの人にエンジンの止め方を教えておくことも大切です。



春は乾燥しやすく、山火事が多い時期でもあります。

山火事にも注意!!

